





# tessy (Unicorn) plays Pacifica/CPX/SAS

まさかの再始動で話題沸騰、新作アルバム「ジャンブル」、そして全国ツアー「ユニコーンツアー2009 蘇える動労」も、大好評のユニコーン。さいたまスーパーアリーナでライブが行われた日、ユニコーンのギターサウンドを支える手島いさむに、再始動のこと、愛用のギター、Pacifica USA2などについてインタビューした。



## 「風」の「海風」を聴いて、エレキを買いに走りました。

最初にギターを始めたきっかけを教えてください。●中学の時、親友の家に行ったらなぜかギターがあったんですよ。親友なのにギターが弾けるなんて知らなくて、なんだよって。彼が弾いているところを見たら僕も欲しくなって買ってもらって、て、3日練習したらすぐ追い越しました。当時野球をやっていたんですが、毎日夕方まではグラウンドで野球、夜は家でギター。その繰り返しだったです。当時は今みたいに教材がないから、歌本や音楽雑誌とか、そういうのを買ってきて。この曲はこうやるんだって、一曲一曲覚えていきました。最初はアコースティックギターです。

●ずっとアコースティックでした。ソロもアコギがちよこちよこやっていたんですが、当時伊勢正三さんがやっていた「風」というバンドの「海風」という曲があって、そのソロにハイフレットのチョーキングがあって。ああ、これはもうエレキじゃないとダメだ!って思ってエレキを買いに走りました。本格的にバンドをはじめたのは?

●大学に入って、サークルで、その後、サークルの先輩だったドラムの川西さんに誘われて、学外のバンドに入りました。今でいうインディーズです。東京、名古屋、京都、大阪など全国の有名なライブハウスをツアーするバンドでした。ほとんどバンドは解散するんですが、その頃にプロになる決意をして、いろんなタイプのバンドをやりました。一時期は5バンドぐらい掛け持ちしたりして。その後、もう一度川西さんとバンドをやるんですが、それがユニコーン。87年の10月にデビューして、そこからは突っ走る日々になるわけです。

## いつか、もう一度やる、そんな気がしていました。

ユニコーンの再始動は、どんな経緯だったのですか。

●16年たって大人になって、またバツと集まってみました。という感じです。今となっては誰が言い出したとか、たいてい問題じゃないですね。それに僕にはなんとなく「いつかはもう一度集まるだろう」という予感があったんです。ま、各人がそれぞれ活動していて、それぞれサイクルがあるわけですよ。その5人のサイクルが揃ったのが、たまたま16年後だったということなんです。ある意味、とても自然な流れでした。たまたまアルバムを作って、たまたま大きな会場でツアーする機会が与えられたのでやってますけど、バンド内では「普通にこうよ!」という感じ。僕ら、気持ちとしてはライブハウスでこじんまりとやったって全然良かったんですよ。

メンバーが久々にそろって演奏してみても、変化した点がありますか。

●前は「オレが、オレが!」だったのに、今は「キミが、キミが!」(笑)。お互いを尊重するんですよ。大人になりましたからね。それぞれ出るべきところかわかったんです。メリハリがついて、音もキャラクターもうまくブレンドできるようになったと思います。

## この5人から出せる音、それがあるから演じている。

一方で変わらない点は?

●やっぱり人の良さですね。みんな、ある意味スタイリッシュで、ある意味田舎者なので、妙に素朴なところと、妙に洗練されたところがあるんですが、そこは変わらないです。しかもそんなお互いを尊敬できて、それをカッコいいと思えるところも変わりないですね。ユニコーンってちょっと特殊なんです。5人とも、音楽的にも、遊び人としてもレベルが高く、5人揃うのが奇跡的だし、それがこのバンドならではの。ここもやっぱり変わらないです。

このメンバーでないと出ないサウンドがあるのですか?

●もちろんです。それがあってから演ってるんですよ。メンバーがいっしょに音を出す「やっぱりこれなんだよね」って思います。あのね、上手な人を集めればバンドができるわけじゃないんです。ビートルズはテクニク的に飛び抜けているわけじゃないけど、あんなノリのバンドはできないわけですよ。それと同じ。ユニコーンはこの5人でないと出ないサウンドです。ユニコーンでライブすることは楽しいですか?

●奥田民生が言うんだけど、ソロでライブをすると、2時間歌ってる。たとえばカラオケで、2時間マイクを独占して歌ったらどう思うだろうって。ヤツはそういう感覚も持っているんです。ユニコーンは僕も歌っているわけですよ。ベースやキーボードだって、ドラムだって歌う。そういうバラエティ番組的なところがある、こんなことをやったら楽しいだろうなってというのが、ユニコーンです。

## 僕のPacifica USA2は理想のギターにかなり近い

ギターはヤマハのPacificaがメインです。●Pacifica USA2をずっと使っています。最初はPacifica Customを使っていたんです。ロックっぽく



て良かったんだけど、だんだん音のバリエーションが欲しくなってきたのでUSA2にしました。アームやピックアップを僕のお好みに変えてもらったんですが、これがもう、素晴らしいギター。ライブでもスタジオでもずっとこれを使っています。

Pacifica USA2のくらしに使っています。●1998年に作ったからもう11年。これが僕のナンバ1です。同じスペックでもう1本作って、ツアーでは2本のPacifica USA2を交互に弾いています。最初に作った方がナチュラルで、新しい方が青。弾いてみると意外と性格がちがって、青のほうがロック向きですね。ギターって、手にしてから完成まで時間がかかるんですよ。新しい青い方はピックアップを変えてみたり、ネックにも少しずつ手を入れています。速弾きのためにネックは薄い方がいいし、芯のある音、という意味ではネックは太方がいい。僕は両方あるギターが欲しいので、そのバランスを探ってます。

ライブではアコースティックのCPXも弾いています。●ロックサウンド中でアコギリしい音が欲しいので、ツアーではサウンドホールを塞いで使ってます。ジャキジャキ感を出すためにいろいろ試したんですよ、弾き方を。ピックも固いものから柔らかいものまで試してみたら、意外にも柔らかいピックで軽く弾くのが、いちばんいい音が出ました。

手島さんととっての「理想のギター」とは?

●24フレットあって、ネックは薄めで、アームがダブルロックと、太いハンパッカーの音とシャープなシングルコイルの音が出るギター。わりとハッキリしてるんです。メインで弾いているナチュラルのPacifica

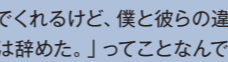
USA2は、かなりそれに近い。歪ませると途中からフィードバックが出るぐらいのいいパワー感で、クリーンはどこと綺麗なハーフトーンが出せる。セブンスコードが美しく鳴ってくれて、アスティンもほとんどある。だからPacifica USA2は正直言って今回のユニコーンでも、駆使しますよ。

## 好奇心と忍耐力があればバンドはすぐと続けられる

ユニコーンの再結成で、バンドを続ける勇気ももらった人も多いと思います。アドバイスいただけますか。

●僕らみたいに40歳を越えてからコンサートツアーをするのはレアなケースですけど、確かにバンドを続けることは大変なことなんです。でもやっぱり言えるのは、バンドは「続けること」が楽しいんです。先日故郷の広島に帰って同窓会に出たんですよ。みんな僕がバンドをやってることを喜んでくれるけど、僕と彼らの違いは「オレは続けた。彼らは辞めた。」ってことなんですよ。バンドが好きなら歯を食いしばっても頑張るとか、ユルいながらもバンドを続けるとか、どんな方法でもいいんです。ギター弾くのは普通に仕事をしていると続けられることだからね。プロでもアマチュアでも「バンドって40歳になってでもできるのかな、いつまでもバンドをやりたいのかな」って迷うことがあると思うんです。そんな人たちに、今のユニコーンを見てもらって、勇気を持ってもらえればいい。そんな活動なんですよ、僕らの活動は。好奇心と忍耐力。それがあればバンドはいつまでだって続けられます。

ツアーのための特製ピック(非売品)



## はじめてドラムを叩いたのは野球の応援と定期演奏会

ドラムをはじめてきっかけを教えてください。

●中学、高校と吹奏楽部だったんです。最初はクラリネットをやっていたんですが、肺炎でドクターストップがかかってしまって、高校1年の夏にパーカッションに転向してマリリンバやシンバル、ティンパニーとかをやりました。ドラムは高校3年になってから。野球の応援や定期演奏会の際にはじめて叩きました。ドラムを叩いてみてどうでしたか?

●はじめは難しくて。みんなはいきなり8ビートが叩けたのに、私だけ叩けなかったんです。悔しくて、凄く練習したんですよ。そしたら、そのうちに好きになって。ロックが好きだったこともあって、大学では軽音楽部に入りました。

軽音のサークルでドラムにのめり込んだのですか。

●先輩とバンドを組んで、ボンジョビとかのアメリカーノロックをやりました。吹奏楽出身だから、いつも楽譜を見ながら完コピで演奏してたんですけど、ある日先輩に「お前、それはタサイぞ!」って言われて。それで、ああ、楽譜通りの演奏より、グルーブとか、音の出し方、チューニングとかの方が大事なんだって気づいて。そこから変わりましたね。その後コピーよりオリジナルが面白いと思い始めて、オリジナル中心のバンドを組んだりしました。

## チャットモンチーは最初からプロ志向だった

チャットモンチーにはどう経緯で参加したのですか。

●ベースのアッコちゃんが後輩で、何度か誘われて。当時からこの人たちは「プロでやる」って知っていたから、それなりの決意をしてから加入しました。

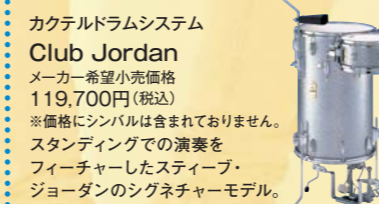
チャットモンチーに入って、どうでしたか。

●緊張感がありましたね。姿勢が全然違うなって思った。遅刻とかでそれまでは平気だったけど、そういうのも無くなって。2人が真剣だから、自分も真剣にやんなきゃアカンやろって思ったんです。当時一回の練習が普通に6時間くらい。軽音のスタジオが一日中使えるから、日曜日とかは朝から晩まで。それだけやると上手くなるし、上手くなるもまた楽しいっていう好循環。練習だけじゃなくて、曲づくりに長い時間をかけていました。

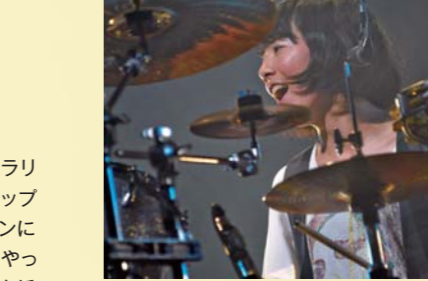
デビューのきっかけは?

●あるコンテストでグランプリを獲ったんですけど、そこでデビューの話とは全く、逆に「君らみたいなバンドは全国にゴマンといるから」って言われて。それでもめげずにデモCDを送りまくって、結局それがきっかけになりました。デモCDを送る封筒をめっちゃカラフルにして送ってたら、郵便局の人に「こういうの次からやめてくれます」って言われたこともあります。でもそういう努力も大事!普通に送ったら絶対聴いてもらえなくて思っていて、必死でしたから。

## Instruments



スネアドラム(ワインテージコンセプト) VSD1460 ●メーカー希望小売価格 47,250円(税込)



## メインのセットはパーチカスタムアップノールト

●2年くらい前から。パーチカスタムアップノールトを使っています。最初はパワフルなサウンドのオークにしようと思ったんですけど、パーチを試したら音に深みがあって気に入りました。でもバスドラムだけはパワーが出せるオークにしています。

スネアは何を使っていますか。

●曲によって音色を変えています。アルバム「告白」の「あいまいな感情」という曲ではヤマハのVSD1460を使いました。音に暖かみがあるなって思って。凄くマッチしましたね。「海から出た魚」という曲ではハイビッチにしてもローが出るNSD1470を使っています。タムを12"+13"から10"+12"に変えたそうです。

●私、タムが凄く好きで、タムが和音になるようにチューニングしたいんです。でもチューニングでいつも苦勞して。12、13だと口徑が近かったんだと思います。それで10"のタムにして口徑を小さくしてみたら、すごくチューニングしやすくなりました。

ハードウェア類はどうですか。

●すごく使いやすいです。タムのマウントがグルグル

今年3月にリリースされた3rdアルバム「告白」が好評を博している3ピースロックバンド、チャットモンチー。

そのパワフルで歌心溢れるビートを響かせているドラマーの高橋久美子に、バンドのこと、ドラムのこと、愛用のヤマハドラムについてインタビューした。



## Kumiko Takahashi Plays Yamaha Drums

Drum Set Up 1: NBD22UA 22" x 17" SLS 2: BTT1110U 10" x 8" SLS 3: BTT1112U 12" x 9" SLS 4: BTT1116 16" x 16" SLS 5: NSD1470 14" x 7" HSS

## 楽器屋さんや仲良しになることをお勧めします!

チャットモンチーの影で「女の子のバンド」をやりたい方が増えていると思います。彼女たちに一言お願いします。

●女の子のバンドは楽しいですよ。普通にみんなでケーキ食へに行ったりできるし。「早めに集合してランチしてはいるから、レコーディングの時にチューニングでいろいろ対応できると戦っています。ツアーでは「クラブジョーダン カクテルドラム」も使っていますね。

●あれ、いいです。めちゃ楽しいです。堅苦しい感じがないから、ドラムをやったことのない人でも絶対楽しいと思います。スタジオに置いておくと、アッコちゃんやエツちゃんが、ずっと叩きまくっています(笑)。

## 必要最小限のドラムでいかに曲をカッコよくするか

高橋さんが目指すドラムとは? ●私はバンドのドラマーで、バンドってひとつのカタマリだと思うんです。そこでのメインは何かというと、曲をよくよく、よりカッコよく伝えること。だから歌詞もよく理解して、どうやったら音楽として面白いことが提案できるかってことを考えています。私が目指しているのは「ドラムをどう叩くか」より「バンドをどう見せるか」ってこと。そこにメインをおいています。ドラムより音楽そのものを大切にすることです。 ●そうですね。まず曲ありき。その曲に必要なだけという姿勢です。この曲にはキックしかなければならぬという姿勢です。この曲にはキックしか必要ないって思ったらよくする。必要最小限でいかに曲やバンドをカッコよくするかってことを、これから目指したいですね。 ◆



Chatmonchy RESTAURANT Main Dish

Chatmonchy RESTAURANT Main Dish

Chatmonchy RESTAURANT Main Dish